

戸塚高校『交流室』の取組

～生徒の抱える心の問題解決に向けて～

戸塚高校 竹内直美

1 交流のなかから学ぶこと

今から6年前の9月、残暑の厳しい午後の授業中、前から気にかけていた男子生徒がボソッと「先生、死んだら楽になるのかな？」と呟きました。「うーん」と言ったきり返事が出来ませんでした。彼の目を見つめながら、彼の苦しみに応える術のない自分を恥じました。この経験からカウンセリングの必要性を感じ、「交流室」への取組を始めるきっかけとなりました。

児童虐待や少年による犯罪が繰り返し報道される度に心が痛みます。特に高校生に関わる事件については他人事ではいられません。「学校が何かできなかったのか」と考えてしまいます。苦しかったり、寂しかったり、人間は誰しも迷い、悩むことがあります。少年が関係する事件について考えると、家族も含めた周囲とのコミュニケーションのとり方に問題を抱えているケースが多くあります。30年以上高校生と向き合ってきましたが、最近の10年間は生徒が大きく変化していると感じています。

ある学年の入学式で、その変化に気づきました。難関を突破して入学できた喜びや、新しい環境、新しい友人との出会いに歓喜する様子がみられず、オリエンテーションでも、よそよそしい態度で校内を見学していました。(この時間は友達作りのチャンスでもあるのに！)

その日の昼食時間、教室があまりに静かなので覗いてみました。そうすると「先生お弁当食べてもいいですか？」と聞かれてしまいました。驚いて教室を見回すと誰一人弁当を食べようとしていないのです。それまでの経験では、入学後の生徒でも、すぐに仲間を作り、机を寄せあっておしゃべりしながら弁当を食べていました。おとなしく、感情の表出が少ないことに驚かされました。

これまでの高校生の問題行動の多くは感情が外に向かい、暴れることでした。ときには教師への反抗という形で、強く本気でぶつかって来たものです。校内暴力や他校の生徒との大乱闘で生徒指導部の教員が駆けつけて対処することも度々ありました。最近の生徒の様子は様変わりしました。当面のトラブルをさげ、自分を出さないで学校生活を送っているように感じます。

生徒一人一人が抱えている問題の質は時代とともに変化してきましたが、問題自体が無くなることはありません。むしろ、内面に問題を抱えた生徒の数は増加を続け、生徒像も多様化しています。日本は「成長社会」から「成熟社会」に変化してきました。しかし、生徒が今ほど「将来に向けて希望」を持つことが難しい時代はありませんでした。「将来何になりたいかわからない」「どうしても手に入れない物はない」「何をしてもつまらない」「取り敢えず今が良ければそれでいい」という感じです。

生徒の育ってきた環境について考えて見ると、核家族

で兄弟姉妹が少なく、一人っ子が多いことに気づきます。「無条件で自分を受け入れてくれる祖父母」「お節介焼きの近所のおばさん」「ガキ大将のようなお兄さん」はいません。共働きの両親の代わりにゲームのコントローラーが相手です。携帯電話を親指一本で操作すればコミュニケーションが取れると錯覚していますが、実際は親指を動かしているだけの一方通行のケースがよくあります。

2 多様化する保健室の役割

4月・5月は生徒にとっても保健室にとっても大変な時期です。「新しいクラスに馴染めない」「クラスの中にグループができて行くが、どのグループにも入れない」など、悩みをもった生徒が保健室に助けを求めてきます。グループに入っているからといって安心できるわけではありません。自分らしさを出さずに、他のメンバーに気を遣いながら時間を過ごしている生徒も実は多いのです。ストレスから体調を崩し保健室を訪れるケースは後を絶ちません。

保健室は通常の病気やけがの生徒も多く、ときには処置に緊急を要する場合があります。そんななかで養護教諭に話を聞いてもらいたくて、じっと手が空くのを待っている生徒もいます。座り込んで化粧を始める生徒も出てきます。「授業に出たくない」「この部屋に居させて欲しい」と言う生徒もいます。養護教諭はその生徒達の対応に追われ、へとへとの状態が続きました。

まず、この深刻な状況を何とかしなければなりません。保健室に居場所を求める生徒の「心の問題」を養護教諭が一人で解決できる状況ではありませんでした。学校全体で取組まなければならない重大な課題であると考えました。

3 交流室の設置

戸塚高校では平成15年から単位制を導入しました。それに伴う諸問題を検討する中で生徒の心の問題がクローズアップされました。「単位さえ取ればいい」と考える生徒もおり、学校生活の人間関係が明らかに希薄になっていました。「心の問題」「生き方」「あり方」をこれまで以上に支援していく必要があると職員室では話し合われました。その結果として、保健室以外にスペースを設置し「心の問題」へ取り組む拠点とすることになりました。スペースの名前を「交流室」として「話したいこと」「誰かに相談したいこと」「聴いてもらいたいこと」があれば、いつでも利用できるようにしました。

この「交流室」は生活環境部の校務分掌となっています。生活環境部は生徒の学校生活全般をサポートする担当です。交流室を担当するのは養護教諭の他に以前から

カウンセラー研修を受けていた4人の教員があたりました。これにより保健室は本来業務の応急措置、相談や心のケアは交流室といった二本立ての体制をとることになりました。

4 交流室の取組み

高校生の心の問題は量、質ともに深刻です。来室者の数は全校生徒約800人中、平成15年は143件、16年は143件、17年は122件となっています。10年前の保健室における相談件数61件と比べると約2倍に増加しています。解決すべき問題も多様なものです。「自己疎外感からの自殺願望」をはじめ、「いじめ」「不登校」「親子関係」「うつ」「パニック障害」「虐待」「異性問題」「部活」「友人との人間関係」「自傷行為」「監禁」といった事例がありました。どの問題も交流室の複数の担当者が生徒をカウンセリングし問題解決に向けて中心的な役割を果たしました。保護者、校長、担任、学年団、部活顧問、教育相談員、精神科医師、児童相談所、県、市の教育相談機関と連携を行いました。ここで重要なことは、生徒の問題に対して学校全体で対応するということです。70人近い教職員が協力して生徒の問題を解決するために『情報の共有』『守秘義務』を徹底しています。

(事例1)

多人数が集まるところが怖いという症状のパニック障害の生徒がいました。交流室と教育相談員とで対応を協議した結果、卒業式を前に学年はその生徒が式に出られるように配慮し、式の流れを止めないよう協力して対応しました。その生徒はなんとか耐えて担任の呼名に応え、式場を出た後で担任から卒業証書を受け取ることができました。

(事例2)

家庭内の問題から虐待をうけたケースです。家を出て外の公園や駅前の商店街を歩き回り、家族の寝静まる頃に家に帰るとい状況です。授業中に教科担任が様子の変化に気づき、対応がはじまりました。「授業中寝ていると怒られる。何処か安心して居られる場所が欲しい」と訴えていました。

この事例は交流室担当者が児童相談所へ通報を行い、保護されることになりました。児童相談所による改善へのケースワークが行われ、一応の解決をみました。

保護解除の後も、学校復帰の際に「交流室」を活用しました。この後、順調に学校生活への復帰が進みました。

5 解決に向けての交流室の役割

- ①担任、教科担当が早い時期に生徒の変化に気づき、交流室に伝えたこと
- ②学校内部だけでなく学外の機関（教育相談員、児童相

談所、民生委員など）の活用を交流室がコーディネートしたこと

- ③タイミングよく会議を招集し、きめ細い情報交換と協議を行ったこと
- ④生徒を支え、励まし、卒業までの3年間自己実現への援助をしたこと

6 最後に

高校生の抱える問題の原因を考えると、その背景には大人社会の問題が存在します。「将来に希望を持てる社会の構築」「家庭や地域の教育力の回復」ということを口で言うのは簡単です。しかし、教室で悩み苦しんでいる生徒に「それは、家庭が解決すべきこと」と対応したのでは、「教育のプロ」とは言えません。

臨床心理士や文部科学省派遣の学校カウンセラーも必要ではあります。思うように学校カウンセラーが配置されない現状では、毎日生徒と顔を合わせ、接している時間の長い教師こそが、生徒にとって理解者であり、カウンセラーであるべきだと考えます。戸塚高校では交流室を中心に自主的にカウンセリングマインドの研修を計画し、カウンセリングの技能を磨いています。最近の生徒児童の状況をみまると、心の問題は、全ての学校が取組むことを余儀なくされている重要な問題であると考えます。

交流室を知っていますか



交流室では貴方が悩んでいることを自由にお話出来ます

人間は一人では生きて行けません。お互い支えあって『人』になるのです。

家族に支えられ、友人、先生、そして社会の人々に支えられています。

でも、このように多くの人に支えられているのが分からなくなってしまう時があります。誰も自分を理解してくれない。自分は誰からも愛されない存在だ、というような孤独感、そしてその心の内を打ち明けて支えてくれる人が見つからない。

そんな時あなたの話を聴き、あなたに寄り添って、あなたと共に悩み、苦しみ、共に喜ぶのが交流室の先生の出来ることです。

そして、あなたがあなたらしく生き生き自分の道を歩いていくのを見たいのです。

誰かに話して聞いてもらいたい時、一人で落ち込んでる時、交流室へ来てみませんか。